

論説

UNDP で働く～はじめの一步

近藤哲生

国連開発計画（UNDP）駐日代表

三井実歩

人事サービス担当マネージャー

国連開発計画（UNDP）コペンハーゲン事務所

1. UNDP とは～その任務と人材

（近藤哲生）

UNDP で働こうと思った理由は、UNDP が貧困撲滅などの開発問題と紛争地域の平和構築などの両方の面で成果を上げている国連機関だからという人が多いと思います。なぜ、UNDP はそのような多面的な役割を担っているのでしょうか。

国連は、設立 72 年、第二次世界大戦後の戦後処理や安全保障体制として作られました。その後の世界が東西冷戦や南北対立に向かって行ったことで期待される役割も自ずと変わっていきました。特に、1960 年代にはアフリカなどを中心に新たな国が数多く独立し、国やコミュニティを統治するためのガバナンス支援が必要となった時代、1966 年に UNDP が国連総会の決定でつくられました。それ以降、開発途上国では UNDP はその国の政府にもっとも近くで寄り添って国づくりや開発を妨げる諸問題を解決するお手伝いをしてきました。

もとより、国連の任務は、人類が向き合わなければならない、平和、人権、開発の 3 つのテーマですが、世界情勢の変遷とともに、新たなアプローチが注目されるようになります。ひとつは、1992 年の地球サミットで提唱された、地球全体の環境を持続可能な開発によって守っていかなければならないということです。また、1989 年に東西冷戦が終わると、人間の安全保障を、飢餓・疾病・抑圧等の恒常的な脅威からの安全の確保と、日常の生活から突然断絶されることからの保護を含む包括的な概念である「人間の安全保障」が開発の主題として提起されるようになり、1994 年に UNDP が同概念を初めて公に取り上げて人間開発報告書を発表しました。人間の安全保障は、その後のミレニアム開発目標(MDGs)や持続可能な開発目標(SDGs)の基本方針として採用されている、国連の重要な任務のひとつです。

UNDP は、このような開発と平和の課題に現場で直接向き合いながら、各国政府の問題解決能力を強め、強靱な社会をつくるとともに、ジェンダー平等や法の支配などを通じて、未来を見据えて人々の生きる環境を改善するという任務に取り組んでいます。そこでは、行政、法律、経済、経営、工学等々様々な分野にまたがって、現実の課題に取り組むための知識や経験が必要となります。また、予想外の出来事や危機的状況にもたじろがない平常心と胆力、そして常に世の中の変化の最先端で解決策を見出そうとするイノベーション

の姿勢が求められます。

UNDP の職員の中には、テクノロジーや金融をはじめとする民間企業、マスコミ、政府機関などで働いてきたという様々な職業経歴を持つ人がいます。大学や大学院を卒業してすぐに UNDP に入職したという人は極めて稀です。学生として将来 UNDP を目指すのであれば、まずは自分が進みたい分野の企業や官庁などで力をつけ、一流のプロフェッショナルとして実績を積むことが重要です。日本政府が UNDP などの国連機関と協力して、若手人材に国連で活躍するチャンスを提供する、ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー（JPO）は、最も一般的な入口だと思います。それ以外にも、現在ある UNDP の本部やフィールドの様々なポジションが空席となった場合に公募されるポストや、新しくプロジェクトが始まるときに新設されるポストへの応募も、UNDP に入るチャンスです。国連職員になる前段階として、まずは国連ボランティアや期間限定のコンサルタントとして採用され、後に国際職員に登用される人も数多くいます。

すなわち、UNDP が各国で、また様々な時期に取り組まなければならない諸課題の解決のために、もっとも効果的、効率的に貢献できる人を選ばなければならないという要請に応えられる人材に集まってほしいということです。そのような人材として活躍することを目指している方のために、UNDP 駐日代表事務所では、キャリア・セミナーなど各種のイベントを企画したり、インターンシップの機会を提供したりしていますので、是非、ご利用ください。

それでは、まさに各キャリア・セミナーで国際協力キャリアを目指す方々に情報提供をしている UNDP コペンハーゲン事務所人事サービス担当マネージャーの三井職員からの声もご紹介いたします。

2. 私企業から国連へ～JPO プログラムとその後のキャリア形成

（三井実歩）

国連開発計画（UNDP）で勤務をしております三井実歩と申します。現在はコペンハーゲンにある UNDP の事務所で、人事サービスを提供するチームのマネージャーとして勤務しています。具体的には、UNDP や契約をいただいているその他の国連機関のプロフェッショナル・スタッフの雇用契約やお給料や諸手当のお支払い、それからそれに必要な諸手続きを行うチームです。現在はサービスセンターとしての位置づけですが、UNDP の人事を担う一本の大きな柱として活動しています。

今回はページをお借りして、私が、なぜ、どのようにして国連職員を目指し、国連職員として勤務を始めたかお話しさせていただきます。もうすでに国連を活躍の場としてお考えの方、将来のオプションを大きく考えていらっしゃる方に少し踏み込んで国連というオプションをお考えいただけるきっかけになればと思います。

私はイギリスの大学院で開発学を学びました。その後は帰国し、外資会計監査法人の人事

および組織マネジメントのコンサルタントとして4年弱東京で勤務しました。その間にJPO試験に合格し、2003年から国連の人事分野で勤務しています。

JPO試験に合格するにはどうしたらいいですか、というご質問をいただくこともあるのですが、私の個人的な場合をみますと、まず、必要条件である学位、語学、それから職歴をクリアしていたこと、それから国連で働きたいというモチベーション、採用の際、自分が国連に対してどのように貢献できるのか、そして国連でどのようなことをさらに学ばなくてはいけないかという、自己分析ができていたこと、それから国連で働くというある程度の覚悟が、合格につながったかと思います。

学位については前述いたしました。私は父親の転勤のため小学校・中学校とアメリカで過ごした時期があり、高校・大学もアメリカで卒業しています。このため、日本国内で勤務中も、どこかで日本国内のみならず、海外の動向、特にグローバルレベルでみられる貧困の格差、人権、移民の問題に興味がありました。国内にいながらも何かしたい、そのためにはまず知ること、ということで東京にある国連事務所が主催するワークショップ、在東京の国際NGOの勉強会などに参加していました。ですので、JPO試験を受験する際には自分の中でなぜ国連で働きたいかというモチベーションははっきりしたものを持っていました。

希望職種ですが、当時の私には職務経験はないが学問としての知識はある開発の分野と勉強はしていないが職務経験のある人事としての2つのオプションがありました。外務省の方と相談の上、人事分野のJPOとなりました。これは、自分が先々、どのように国連に貢献していくか、他の人と比べて自分の強みは何かを考えたとき、明確な決断となりました。そして、人事は人事でも内向きの人事ではなく、「開発」というUNDPのコアビジネスを理解し、そのミッションを担う職員と組織を支える人事官として貢献しよう、と学問と職歴の両方から貢献できるような目標をたてました。国連といえば途上国でプログラムやプロジェクトを担当するものとの考えを超え、自分が貢献できる人事を選んだことは正解だったと思っています。当然、国連の人事は私企業とは比べ物にならないほど複雑であることは容易に想像でき、JPOとしての期間に学べるものは学ぼう、という姿勢も保ちました。国連はどの職種でも「学べる人」、「自らを育てる人」を求めており、自分の経験や知識の上に胡坐をかいてしまうような人は長く続けられないような気がします。謙虚さをもって真摯に職務にあたる姿勢がJPOとしても評価され、その後の採用の基礎となるものと思います。

そして最後に、覚悟、ということを申しましたが、これはひっくり返して言うと、どれだけ自分をチャレンジングな環境に置き、自分のキャリアに責任を持ち、自分の選んだ道に納得できるかということだと思っています。国連での契約の多くは数年ごとの更新の繰り返いで、退職までの勤務が保証される場合はほとんどありません。異動もあります。必ずしも自分が希望する異動先ばかりではありません。ただ、自分のキャリアを自分で築いていく楽しさがあります。将来携わりたい仕事を見据え、その分野での知識・経験を積み、空

席が出たときに手を挙げ、そのポストに適切であると判断されればその分野での活躍が可能です。汎用性のある職務、例えば管理部門の仕事、コミュニケーション、評価、パートナーシップなどであれば、他の国連組織のポスト、他の勤務地のポストに応募することも可能です。これらの仕事はあまり表にはでませんが、どれも国連ミッション達成のために必要な大切な仕事です。技術的に専門的な分野をお持ちであれば国連の専門機関で専門性を磨きそれを武器に私企業、政府、NGO では達成できない国連ならではの大きな仕事が可能となると思います。年功序列という考えもないので、若くても実力のある人は責任のあるポストに就くことができます。つまり、どれだけ、国連、または個々の国連組織のミッションに共感でき、国連ならではの仕事の醍醐味を見つけ出せるか、そのためには自分は何ができるのか、何をしたいのか、何を学ばなければいけないのか、を考えることにより、「覚悟」のレベルが決まり、そしてその「覚悟」が将来の「チャンス」と結びついてくると思うのです。

国連を就職先の一つとして考えていくには様々な考慮点があると思います。UNDP 日本事務所をはじめとする各国連組織の駐日事務所、外務省国際機関人事センター、ウェブサイト、職員によるセミナーなどを利用して、まず情報を得て、国連のミッションそれから自分のしたいこと、できることを考えてみてください。自ずと次の一歩が見えてくると思います。そして、恐れずに、その一歩をぜひ踏み出してみてください。何かが開けると思います。